

文化芸能

中部

美術縁起

二〇一六年十一月、愛知教育大(愛知県刈谷市)は翌年度の教育支援専門職養成課程の新設と同時に、現代学芸課程の廃止を発表した。一九八八年に発足した総合科学課程を起点にした課程で、芸術関係では総合造形コース(現造形文化コース)を設け、美術史、ガラス、金工、プロダクトデザインなど多彩な研究室が設置されていた。国立大として社会的役割の見直しを迫られた結果

ではあるが、これらの開花が期待された約三十年の蓄積を無にしてしまいかねない路線転換ぶりに当惑は隠せない。

芸術を育む場

栗田 秀法

愛知教育大

美術教育担い手輩出

教員免許取得を目的とする現在の美術選修・美術専攻は、愛知県



愛知教育大の卒業制作展Ⅱ2017年2月、愛知県刈谷市で

で美術を本格的に学ぶ場として、明治の師範学校時代から地域の美術教育を担う人材を脈々と育成してきた。六六年に愛知県立芸術大が設置される以前の愛知学芸大時代の出身者では、絵画の稲葉桂、近藤文雄、森真吾らに加え、第一回日本現代版画大賞展(七七年)で注目を集めた森岡完介、第一回和歌山版画ビエンナーレ展(八五年)で大賞を受賞した山田壺(うづ)らが特に注目される。岐阜・三重の教員養成系の講座から出た作家では、第二回西武美術館版画大賞展(八四年)で大賞受賞の小本章(岐阜大)、見慣れたイメージに手を加えることによって新鮮な視覚を提示し、国立国際美術館でも個展が開催された小川信治(三重大)が特筆されよう。

美術教育では実技教育に加え、

鑑賞教育も近年では重要視されている。美術館での教育に関心をもち、教員や学芸員がこの地域に増大し、教育普及活動が活性化したのには、愛知教育大教員の藤江充氏らが中心となつて九二年に立ち上げたアミューズ・ヴィジョン研究会の存在が大きい。所蔵品の絵はがき大の作品図版で構成された「アートカード」は、同会を中心に構想が練られたもので、子どもが遊びながらゲーム感覚で美術鑑賞のコツを身につけられることに加え、コミュニケーション能力も養える鑑賞学習教材として話題となった。現在では国立美術館にも採用されるなど全国に広まり、さらなる工夫が重ねられている。冒頭に挙げた理由で美術分野が著しく縮小された愛知教育大であるが、教育支援専門職養成課程にも、教育学芸員の養成など、芸術分野も絡んでくることを期待したい。(名古屋大大学院教授)